

## 香川・高松城跡(3) (松平大膳家中屋敷跡)

たかまつじょう

み捨て穴と考えられる土坑が多数検出された。このうち、木簡は一基の土坑から出土した。

- 1 所在地 香川県高松市丸の内
- 2 調査期間 一〇〇一年(平14)二月~三月
- 3 発掘機関 高松市教育委員会
- 4 調査担当者 大嶋和則
- 5 遺跡の種類 城郭跡(武家屋敷)
- 6 遺跡の年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(高 松)

調査地は高松城跡の中堀と外堀の間に位置し、絵図などから藩主連枝松平大膳家の中屋敷と推定されていた。発掘調査において検出されたSK一二三から、松平大膳家家紋(丸に中陰四つ葵紋)を上絵付けした理兵衛焼(高松藩御庭焼)及び瓦が出土したことから、推定が正しいことが確認された。調査地は屋敷の裏庭部分にあたると考えられ、特に一八世紀後半以降の

- 8 土坑SK一二三
  - (1) 「○。 [小嶋カ]
  - (2) □ [村カ]
  - (3) 「とべりや」

(88)×27×5 019  
(64)×26×5 081

(4)	・「小」 「日カ」	188×34×3 011
(5)	・「□」	(88)×(21)×2 081
(6)	「□中村御宿□」	(98)×20×3 019
(7)	□□□□	(121)×(21)×3 081
(8)	「□」	(98)×39×4 081
(9)	土坑のK-111 「井」	93×13×2 051



(3) 表



(9)

(1)の上部は方形を呈し、穿孔が見られ、下部は欠損している。裏面は欠損して定かではないが、「小嶋」の可能性が高い。「高松藩士由緒録」に代々松平大膳家の家来であつたと記載のある、小嶋市兵衛の家系に関するものと考えられる。

(2)は上下が欠損する。(3)は側面の一部を欠くが、ほぼ完存するものである。表面の文字は意味不明で、裏面の墨痕は梵字の可能性がある。(4)は上下とも残存しているが、側面の片側下半が欠損している。(5)は上下、側面とも欠損している。文字は(4)に酷似する。(6)は下は欠損するが、わずかに上端は原形をとどめている。高松



(1) 表

(大嶋和則)

城下の南に「中村」の地名がある。(7)は上下、側面とも欠損。(8)の上部は方形で、下部は欠損している。墨痕の最上部が看取できるにすぎない。

(9)は完存するもので、長方形の材の下部を尖らせたものである。なお、釈読にあたっては香川県歴史博物館御厨義道氏の「教示を得た。

## 9 関係文献

高松市教育委員会・香川県弁護士会『高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）』（110011年）



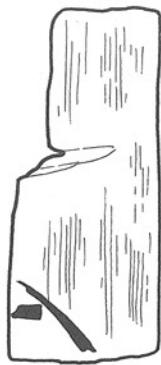
(5)



(3)



(4)



(8)



(1)



(6)



(9)



(7)



(2)

